

委員会審議結果及び意見

事業 整理 番号	部(局) 名	区分	事業名	箇所 (市町村)	事業概要	評価理由	全体事業費(百万円)			事業執行済額 (百万円)	事業期間		費用対 効果 (B/C)	進捗状況等の評価							県の対応方針(案)		公共事業評価委員会																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
							前回 (当初)	今回	前回差 (前回比%)		事業採 択年度	完了予 定年度		現状 及び 見通し	期待 される 効果	社会 情勢 の変 化	評価 指標 の状 況	費用 対効 果	コス ト縮 減	方針(案)	理 由	審議結果	委員会の意見																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
全体																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																</

委員会審議結果及び意見

事業 整理 番号	部(局) 名	区分	事業名	箇所 (市町村)	事業概要	評価理由	全体事業費(百万円)			事業執 行済額 (百万円)	事業期間		費用対 効果 (B/C)	進捗状況等の評価						県の対応方針(案)		公共事業評価委員会	
							前回 (当初)	今回	前回差 (前回比%)		事業採 択年度	完了予 定年度		現状 及び 見通し	期待 され る効 果	社会 情勢 の変 化	評価 指標 の状 況	費用 対効 果	コス ト縮 減	方針(案)	理 由	審議結果	委員会の意見
105	土木	砂防	交付金事業 (砂防)	慶山沢(会津 若松市)	砂防堰堤 工 N=2基	計画変更 事業費 30%以上 増	700	1,272	+572 (+81.7%)	800	H24 (2012)	R11 (2029)	51.95	A	A	A	A	B	A	見直し 継続	計画変更により事業費が増加するものの、砂防堰堤の整備により、下流への土砂の流出が抑制され、人家等の被害防止が図られるため、計画を変更して事業を進める必要がある。	本事業で対象とする溪流の流域は、山腹崩壊や溪流侵食が著しく、不安定土砂が堆積しており、土砂流出リスクが高い状態にある。また、溪流の下流側には、要配慮者利用施設や人家、東山小学校、及び県道湯川大町線が位置している。 本事業は、当該溪流において、砂防堰堤2基を整備するものである。 今回の見直しは、現地で発生する土砂を埋戻し材として流用する計画であったところ、埋戻しに適さない粘土質土砂が想定以上に分布していたため、他工事からの土砂流用及び発生残土の処分が必要となり、事業費を増額するものである。これに伴い事業費は増加するものの、1号堰堤及び2号堰堤の整備により、下流側の人家や要配慮者利用施設、公共施設等の被害防止、災害リスクの低減が期待される。 したがって、計画の変更を認め、事業を推進することが妥当と判断した。	〔対応方針〕 見直し継続 〔付帯意見〕 事業推進にあたっては、想定と異なる土質条件を確認したこと等に伴う事業費の増加を踏まえ、土質の課題等について必要に応じて有識者等の意見を参考にされたい。 また、コスト、工期、現地の制約条件、環境への配慮(残土抑制)等を総合的に評価したうえで工法を適切に選定するなど、今後の類似事業における調査・設計の精度向上に努められたい。 更なる事業費の増加が生じることのないよう十分に留意するとともに、コスト縮減のため不断の取組を継続し、事業効果の早期発現に努められたい。
106	土木	道路整備	交付金事業 (道路)	国道401号 大芦工区 (昭和村)	バイパス L=1,138m	事業採択 から10年 経過		2,700		110	H28 (2016)	R16 (2034)	0.53 (参考値 1.04)	A	A	A	A	A	A	事業 継続	現道の幅員狭小区間及び線形不良、急勾配区間を回避するバイパス整備により、現道の交通量をバイパスへ分散させ、現道の歩行者の安全性の向上、車両通行の安全性と円滑性の向上が図られるため、現計画のとおり事業を進める必要がある。	本道路は、「ふくしま道づくりプラン」において「地域連携道路」として位置づけられ、昭和村と南会津町をつなぎ、広域的な物流や観光、救急医療を支える路線として重要な役割を担っている。 本事業は、現道の幅員狭小区間及び線形不良区間、急勾配区間を回避するため、バイパスの整備を行うものである。 これによって、現道の歩行者の安全が確保されるとともに、車両通行の安全性と円滑性の向上、広域的な物流や観光、救急医療を支えることが期待される。 したがって、現計画のとおり事業を進めることが妥当と判断した。	〔対応方針〕 事業継続
107	土木	道路整備	道路橋りょう 改良事業 (県単)	石井大子線 茗荷2工区 (矢祭町)	バイパス L=490m	事業採択 から10年 経過		1,500		413	H28 (2016)	R13 (2031)	0.21 (参考値 0.51)	B	A	A	A	B	A	事業 継続	現道部に位置する落石危険箇所を回避するバイパス整備により、異常気象時における沿道集落の孤立化や迂回路の長大化のリスクの解消を図るとともに、幅員狭小区間及び線形不良区間の回避による車両通行の安全性と円滑性の向上、第二次救急医療施設(塙厚生病院)へのアクセス強化、東白川郡中心部である棚倉町へのアクセス強化に伴う地域の利便性向上や活性化が図られるため、現計画のとおり事業を進める必要がある。	本道路は、「ふくしま道づくりプラン」において「生活幹線道路」として位置づけられ、矢祭町及び塙町、並びに茨城県大子町をつなぎ、地域住民の生活を支える路線として重要な役割を担っている。 本事業は、現道部に位置する落石危険箇所を回避するとともに、幅員狭小区間及び線形不良区間を回避するため、バイパスの整備を行うものである。 これによって、異常気象時における沿道集落の孤立化の解消が図られるとともに、車両通行の安全性向上や第二次救急医療施設へのアクセス強化が期待される。 したがって、現計画のとおり事業を進めることが妥当と判断した。	〔対応方針〕 事業継続

委員会審議結果及び意見

事業 整理 番号	部(局) 名	区分	事業名	箇所 (市町村)	事業概要	評価理由	全体事業費(百万円)			事業執 行済額 (百万円)	事業期間		費用対 効果 (B/C)	進捗状況等の評価						県の対応方針(案)		公共事業評価委員会	
							前回 (当初)	今回	前回差 (前回比%)		事業採 択年度	完了予 定年度		現状 及び 見通し	期待 され る効果	社会 情勢 の変化	評価 指標 の状況	費用 対効果	コスト 削減	方針(案)	理 由	審議結果	委員会の意見
108	土木	道路 整備	交付金事業 (道路)(再生・復興)	浪江三春線 小出谷工区 (葛尾村)	道路改築 L=5,521m	前回評価 から5年経過	29,046	35,272	+6,226 (+21.4%)	27,616	R2 (2020)	R10 (2028)	0.48 (参考値 1.00)	A	A	A	A	A	A	事業 継続	葛尾村産業団地や特定復興再生拠点区域と相双地方の中心である南相馬市や常磐自動車道浪江ICとのアクセス向上による広域的なネットワークの強化を図り、住民帰還の促進や生業再生、新たな産業創出など避難地域の復興を支援するとともに、現道の幅員狭小区間及び線形不良区間を回避するバイパス整備により、車両通行の安全性と円滑性の向上を図るため、現計画の通り事業を進める必要がある。	本道路は、「ふくしま道づくりプラン」において「生活幹線道路」として位置づけられ、葛尾村と浪江町をつなぎ、避難地域の復興を支える路線として重要な役割を担っている。 本事業は、葛尾村産業団地や特定復興再生拠点区域と南相馬市や常磐自動車道浪江ICとのアクセス向上を図るとともに、現道の幅員狭小区間及び線形不良区間を回避するため、バイパスの整備を行うものである。 これによって、広域的なネットワークの強化が図られるとともに、住民帰還の促進や生業再生、新たな産業創出など避難地域の復興の支援が期待される。 したがって、現計画のとおり事業を進めることが妥当と判断した。	〔対応方針〕 事業継続
109	土木	道路 整備	交付金事業 (道路)	国道289号 入叶津道路 (只見町)	道路改築 L=7,800m	計画変更 事業費 30%以上増	20,000	34,000	+14,000 (+70.0%)	20,750	S48 (1973)	R12 (2030)	0.59 (参考値 1.09)	A	A	A	A	A	A	事業 継続	追加のスノーシェッドや雪崩防護柵等の対策施設の設置、及び雪崩対策施設の増加による監視カメラ等の通信設備の設置等により事業費が増加するものの、未整備区間(八十里越)の解消及び通年通行を確保するバイパス整備により、福島県と新潟県の広域物流の機能および観光振興や産業・文化の交流等を強化するとともに、第三次救急医療施設(三条市)へのアクセス強化が図られるため、計画を変更して事業を進める必要がある。	本道路は、「ふくしま道づくりプラン」において「基幹的な道路」として位置づけられ、福島県と新潟県をつなぎ、広域的な物流や観光、救急医療を支える路線として重要な役割を担っている。 本事業は、未整備区間の解消及び通年通行を確保するため、バイパスの整備を行うものである。 今回の見直しは、追加の雪崩対策等に伴い、事業費を増額するものである。 これによって、未整備区間の解消及び通年通行の確保による広域物流機能の強化や、観光振興、産業・文化の交流強化が期待される。 したがって、計画の変更を認め、事業を推進することが妥当と判断した。	〔対応方針〕 見直し継続 〔付帯意見〕 事業推進にあたっては、追加雪崩対策等に伴う事業費増加を踏まえ、国等の関係機関との連携やドローン等の新技術を活用した調査手法の導入など、今回得られた知見を今後の類似事業に活かすよう努められたい。 また、更なる計画変更による事業費の増加が生じないよう十分留意するとともに、コスト削減のため不断の取組を継続し、事業効果の早期発現に努められたい。

委員会審議結果及び意見

事業 整理 番号	部(局) 名	区分	事業名	箇所 (市町村)	事業概要	評価理由	全体事業費(百万円)			事業執 行済額 (百万円)	事業期間		費用対 効果 (B/C)	進捗状況等の評価						県の対応方針(案)		公共事業評価委員会	
							前回 (当初)	今回	前回差 (前回比%)		事業採 択年度	完了予 定年度		現状 及び 見通し	期待 され る効果	社会 情勢 の変化	評価 指標 の状況	費用 対効果	コスト 削減	方針(案)	理 由	審議結果	委員会の意見
201	農林 水産	農地 整備	農地中間管 理機構関連 農地整備事 業	神谷地区(い わき市)	区画整理工 A=43.4ha	計画変更 事業費 30%以上 増	852	1,200	+348 (+40.8%)	990	R3 (2021)	R9 (2027)	1.07	A	A	A	A	A	A	見直し 継続	計画変更により事業費が増加するものの、生産コストの縮減や農業生産性の向上、収益性の向上等を図るためには、導入する作物に応じた補完工事や電柱の移設が必要不可欠であることから、早期の事業完了を目指し、継続して事業を実施する必要がある。	本地区は、地形に沿った小区画で不整形な水田が多く、農道は幅員が狭く、水路のほとんどが用排水兼用の土水路であることから、農業機械の大型化や農地集積の妨げとなっている。 本事業は、農地の大区画化・汎用化及び畑団地の造成と、農道・用排水路の整備を行うものである。 今回の見直しは、導入する作物に応じた補完工事及び電柱移設に伴い、事業費を増額するものである。 これによって、生産コストの縮減や農業生産性の向上が図られるとともに、収益性の向上や維持管理の省力化、農業用水管理の効率化が期待される。 したがって、計画の変更を認め、事業を推進することが妥当と判断した。	〔対応方針〕 見直し継続 〔付帯意見〕 事業推進にあたっては、事業費増加の要因となった追加の湧水対策や電柱移設について十分検証を行い、今後の類似事業においては、当初計画の精度向上や施工後の補完工事の抑制に資するよう、その知見を活かされたい。 また、更なる事業費の増加が生じないよう十分留意するとともに、コスト縮減のため不断の取組を継続し、事業効果の早期発現に努められたい。
202	農林 水産	農地 整備	農地中間管 理機構関連 農地整備事 業	飯豊上地区 (小野町)	区画整理工 A=12.4ha	計画変更 事業費 30%以上 増	383	670	+287 (+74.9%)	453	R4 (2022)	R12 (2030)	1.12	A	A	A	A	A	A	見直し 継続	計画変更により事業費が増加するものの、生産コストの縮減や農業生産性の向上、収益性の向上等を図るためには、大型農業機械が通行可能な橋梁工事や導入する作物に対応した補完工事が必要不可欠であることから、早期の事業完了を目指し、継続して事業を実施する必要がある。	本地区は、10a未満の区画が多く、農道は幅員が狭く屈曲し、水路のほとんどが用排水兼用の土水路であることから、農業機械の大型化や農地集積の妨げとなっている。 本事業は、農地の大区画化・汎用化及び畑団地の造成と、農道・用排水路の整備を行うものである。 今回の見直しは、橋梁工法の変更及び湧水対策等の補完工事に伴い、事業費を増額するものである。 これによって、生産コストの縮減や農業生産性の向上が図られるとともに、収益性の向上や維持管理の省力化、農業用水管理の効率化が期待される。 したがって、計画の変更を認め、事業を推進することが妥当と判断した。	〔対応方針〕 見直し継続 〔付帯意見〕 事業推進にあたっては、橋梁工法の変更及び湧水対策等に伴う事業費増加を踏まえ、今後の類似事業においては、関係機関との十分な調整や将来的な営農環境の変化を見据えた計画策定に努めるなど、当初計画の精度向上や施工後の補完工事の抑制に資するよう、その知見を活かされたい。 また、更なる事業費の増加が生じないよう十分留意するとともに、コスト縮減のため不断の取組を継続し、事業効果の早期発現に努められたい。
203	農林 水産	農村 整備	中山間地域 総合整備事 業(県営)	下郷地区(下 郷町)	用水路工 L=298m 営農飲雑2 箇所 情報基盤 施設1箇所	計画変更 事業費 30%以上 増	1,419	1,966	+547 (+38.5%)	1,669	H30 (2018)	R9 (2027)	1.37	A	A	A	A	A	A	見直し 継続	計画変更により事業費が増加するものの、越水等による農地や公共施設等への浸水被害の未然防止や営農飲雑用水を安全かつ安定的に供給するためには本事業の実施は不可欠であり、早期の完成を目指し、継続して事業を実施する必要がある。	本地区は、農業生産基盤及び生活環境の整備を通じて、地域農業の振興を図る地区として重要な役割を担っている。 本事業は、農業用排水施設や農地防災施設、営農飲雑用水施設及び情報基盤施設の整備を行うものである。 今回の見直しは、営農飲雑用水施設工事に於いて、橋梁管理者との協議を踏まえ、橋梁添架から水道橋単独構造へ工法変更したことに伴い、事業費を増額するものである。 これによって、農業用水の安定供給や農村地域の安全性向上が図られるとともに、安全な飲料水の確保や情報発信機能の向上が期待される。 したがって、計画の変更を認め、事業を推進することが妥当と判断した。	〔対応方針〕 見直し継続 〔付帯意見〕 事業推進にあたっては、工法変更に伴う事業費増加を踏まえ、事業計画の策定段階において関係機関等との調整や工法選定に係る検討を十分に行い、計画精度の向上に努めるとともに、その知見を今後の類似事業に活かされたい。 また、更なる事業費の増加が生じないよう十分留意するとともに、コスト縮減のため不断の取組を継続し、事業効果の早期発現に努められたい。
204	農林 水産	農道 整備	広域営農団 地農道整備 事業	いわき地区(い わき市)	農道 L=9,823m	前回評価か ら5年経過	11,747	12,852	+1,105 (+9.4%)	12,072	H3 (1991)	R10 (2028)	1.02	A	A	A	A	A	A	事業 継続	工期延長の要因であったJR跨線橋工事の完了見通しが立ったことに加え、本路線は、農産物流通の効率化、点在する直売所へのアクセス向上及び一般交通の改善等を通じて、地域農業の振興に寄与する必要不可欠な路線であることから、現計画のとおり事業を実施する必要がある。	本路線は、丘陵山間部に点在する農地を東西に結び、農産物の流通や集出荷を支える路線として重要な役割を担っている。 本事業は、農産物流通の効率化及び集出荷の円滑化を図るため、農道の整備を行うものである。 これによって、農産物の輸送時間の短縮や集出荷の円滑化が図られるとともに、市内外との交流拡大や交通の安全性及び円滑性の向上が期待される。 したがって、現計画のとおり事業を進めることが妥当と判断した。	〔対応方針〕 事業継続

委員会審議結果及び意見

事業 整理 番号	部(局) 名	区分	事業名	箇所 (市町村)	事業概要	評価理由	全体事業費(百万円)			事業執 行済額 (百万円)	事業期間		費用対 効果 (B/C)	進捗状況等の評価						県の対応方針(案)		公共事業評価委員会	
							前回 (当初)	今回	前回差 (前回比%)		事業採 択年度	完了予 定年度		現状 及び 見通し	期待 され る効 果	社会 情勢 の変 化	評価 指標 の状 況	費用 対効 果	コス ト縮 減	方針(案)	理 由	審議結果	委員会の意見
205	農林 水産	ため 池整 備	ため池等整備事業(一般)	新池大池地区 (中島村)	ため池工1式	計画変更 事業費 30%以上 増	220	561	+341 (+155.0%)	246	R4 (2022)	R10 (2028)	2.79	B	A	A	A	A	A	見直し 継続	計画変更により事業費が増加するものの、ため池堤体の耐震補強を行い、ため池決壊による人的、経済的被害を防ぐとともに、受益地における作物の安定生産に資するものであることから、継続して事業を進める必要がある。	本地区は、中島村南部に位置する農業用ため池であり、農業用水の安定供給において重要な役割を担っている。 本事業は、地震に起因するため池決壊による被害を防止するため、ため池堤体の耐震補強を行うものである。 今回の見直しは、詳細な土質調査の結果を踏まえ、地盤改良工法から堤体補強工法へ変更したことに伴い、事業費を増額するものである。 これによって、ため池決壊による人的、経済的被害の防止が図られるとともに、受益地における作物の安定生産が期待される。 したがって、計画の変更を認め、事業を推進することが妥当と判断した。	〔対応方針〕 見直し継続 〔付帯意見〕 本地区の事業推進にあたっては、更なる事業費の増加が生じることのないよう十分に留意するとともに、コスト削減に向けた不断の取組を継続し、事業効果の早期発現に努められたい。 また、今後のため池整備においては、事前のボーリング調査等により土質条件を的確に把握し、事業費の見積精度の向上を図ることで、計画段階の妥当性を高めるとともに、その知見を類似事業へ適切に活用されたい。